

# 図書館報

第 54 号

発行 社高等学校  
編集 図書委員会

「本を読もう」

教頭 後藤 司

デジタル版の図書館報第二号です。図書館報も手軽に、何度でも読むことができますように昨年からホームページにアップしています。図書館の本を少しですが会議室へ移しています。気軽に本に触れる機会を持ってほしいという願いからです。是非、足を運び手にとって見てください。

必要な情報や知識はインターネットで得るのが当たり前になっています。スマホの画面に向かってつぶやけば、一瞬で疑問を解決してくれるサイトが表示されます。情報に到達するスピードと手軽さという点で、インターネットは本（以下本という言葉には読書と意味

も含めて持たせています）

よりも格段に優れています。が、本にはインターネットにはない強みがあります。インターネットはその情報を導き出すまでの過程を見ることができません。しかし、本は情報に加え、著者がある物事に対して、どのように考え、どのように結論に至ったかという、思考過程を知ることができます。答えだけを覚えても試験で良い点が取れないのと同じで「なぜそうなのか」という思考過程を知ることが大切なことです。さらに、著者特有の「ものの見かた」を知ることができ、本を多く読むことで多様な「もの

の見方」を持つことができます。「もの見方」が増えることで、それまでと違った角度から柔軟に考えるこ

とができるようになります。高校での課題研究や大学での論文作成では、ネットでの情報の概略を得たうえで、より深いところを本に求めるとよいでしょう。

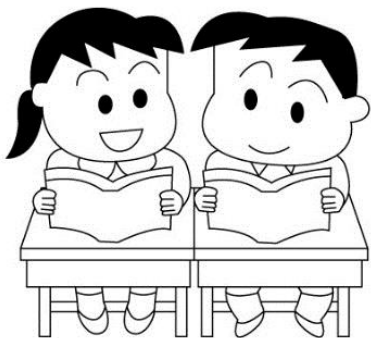
また、本は語彙力を多くし表現力を高めてくれます。人が考えるときには言葉を使いますが、語彙力は考える力の基礎になります。語彙が少なければ使える言葉が少なくなり、考えも単純になってしまいます。逆に語彙が多いと、考えるときに使える言葉も多くなり、より細かくものごとを考え、表現できるようになります。志望理由書を書くにしても、日頃から本をよく読む人とそうでない人の差は大きいです。スポーツや音楽でも身近に手本があると上達が早いように、本は文章の良い手本を示してくれます。

高校生の学びの場ではまだまだ本は必要なものといえます。私の最も長続きしている趣味は読書です。特に小説

を読むことは、非日常の世界を体感できる楽しみ、自分が経験できないような人生を知り追体験できる面白さがあります。ある生徒がホームルームで中国を舞台にした歴史小説の面白さを語ったことがきっかけで、その種の小説を読みあさった時期があります。宮城谷昌光「晏子」「奇貨居くべし」や浅田次郎「蒼穹の昴」などは描かれている人間が魅力的です。お勧めします。

読書は苦手という人は、自分の知っている映画やドラマの原作を読んでみてはどうでしょうか。「ハリーポッター」は原作を読んだ人も多いと思いますが、原作と映像ではずいぶん違っていたり、映像では省かれた部分が多く描かれていたりします。新海誠「小説君の名は。」、池井戸潤「陸王」、百田尚樹「永遠のゼロ」、カズオ・イシグロ（ノーベル賞作家）「わたしを離さないで」：あげればきりがありません。先に原作を読み後

で映像を見て比べるのもおもしろいです。本を読む楽しさを味わってください。皆さんが、お父さんお母さんになったときに、さりげなく子どもの近くに本を置いてみてください。ピル・ピート「ワンプのほし」、せなけいこ「おひさまとおつきさまのけんか」などはいかがでしょう。大人が読んでも考えさせられます。



SLA読書感想文  
コンクール  
播磨東地区入選

十六歳。九十歳から学ぶ。  
一年一組 中濱 未来

大正十二年生まれ、九十歳の大作家、佐藤愛子さんが断筆宣言後に書いた新たな代表作に、私ほとても興味が湧きました。

私は過去に、愛子さんの著書『そもそもこの世を生きてとは』を読み、矛盾や不平等に満ちているこの世の意味についてとても考えさせられました。歯に衣着せぬ物言い、読者の心情を言い当てる愛子さんが、今回九十歳を超えて感じる時代とのズレを半ばヤケクソに書くということ、絶対面白いだろうと確信し、この本を手に取りました。また、私の尊敬する落語家、桂歌丸さんが、

どこに向かうか考える上で、とても参考になりました。」

とおっしゃっていました。あの歌丸さんをして「教科書」と言わしめるこの本に私は益々興味を持ち、のめり込むように読み進めました。読んでみると、期待を上回る面白さでした。

その中で、愛子さんがタクシーの運転手に「スマホとケイタイはどう違うんですか？」という単純な問いをした話がありました。質問された高齢のタクシードライバーは分からなかったそうです。もうすぐ高校生だからと渡され、メールや電卓機能が便利だからと使っているこの近代的な道具が、スマホなのかケイタイなのか、実は私も正直なところ分かりません。愛子さんはこう続けます。「そんなものが行き渡ると、人間みんなバカになる。」「日本人総アホ時代がくる。」

私のように便利さだけを求め、その正体さえ分からないのに使い続ける私達若者への警告のような気がしました。確かにスマホは便利ですが、使い方によ

ってはその便利さが私達をダメにすることがあります。調べたり考えたり記憶する努力をせず、すぐに答えが出てしまう便利さは、私達の知能のみならず感受性をも低下させます。直接会話をしないことによる人間関係のトラブルも深刻化しています。愛子さんは、そのようなことにならないうちに、スマホなどの文明の利器をむやみに使わず、自分の力を信じて様々なことに挑戦すべきだという忠告をして

くれているのだと思います。今の私は、分からないことがあるとすぐにスマホで調べてしまいます。SNSなどとは無縁でイマドキではないと思っただけ私も、無意識のうちに自分の頭で考えない便利な生

活を送っていたことに気づかされました。日本人総アホ時代の一員にならないためには、頼るべきはスマホではなく自分であるはずで

「進歩というものは、人間の暮らしの向上」ひいては「人間性の向上」のために必要なものであるべきだ。」

このように、文明の進歩は私達の暮らしを豊かにしましたが、それとひき替えに、かつて人間の中にあつた謙虚さや感謝、我慢などの精神力が摩滅していったと愛子さんは指摘します。私達は便利な世界にいるにも関わらず「もつと便利に」「もつと快適に」と更に上を求めます。そして、便利なのが当たり前になり、ありがたみを忘れ、その便利さなしには生きていけなくなっています。便利を求めるあまりに便利に支配されるという本末転倒の状況が、感謝の気持ちをなくしているよ

うに感じます。何事も自らが努力して手に入れることにより、便利さは最大限生かせるのではないかと思いました。

最後に、『九十歳。何がめでたい』という衝撃的な題名。反発感満載の表現から、愛子さんが今の世の中にとことん不満を持っていることが分かります。時代が進むにつれてどんどん便利になったが、それでもやはり不便だった若い時の方が良い。便利さと引き替えに、とても大事なものが欠けてしまっている。

愛子さんのものどかしい気持ち、この題名から伝わってきました。ビーフカツにプラスチックのカケラが混入していたかもしれないので四万枚破棄したというニュースに対して、愛子さんは、もしも混入していれば舌に触るだろうからその時に吐き出せばいいだけの話なのに、と言っています。異物混入の商品を回収するのは正論か

図書委員から本紹介

一年一組 直井 志帆

もしれないが、今の日本は正論が全てでギスギスとして小うるさい、と愛子さんは嘆いています。これは、臨機応変に対応できない柔軟性や信じて待つことができない忍耐力の欠如といった、大事なものをどこかに置き忘れてしまった私達の現状を的確に言い表しています。それは、鈍くなった感受性への警鐘でもあります。

今回、愛子さんの考えにとっても共感した私は、同年代の高校生とは分かり合えないことが多く、イマドキの高校生ではないかもしれません。これまでは、自分の考えがおかしいのではと不安になることも多かったので、この本を読んで吹っ切れました。「いちいちうるせえ」ことを気にせず、愛子さんのように自分を信じ、前向きに力強く生きていきたい、そう思える作品でした。

(佐藤愛子『九十歳。何がめでたい』小学館)

川村元気『世界から猫が消えたなら』

「この世界から何かを消すかわりに一日だけ命を得る。」

脳腫瘍で余命わずかであることを宣告された主人公は生きる為に悪魔と取引を行う―

「何かを得るためには、何かを失わなくてはならない。」そんなビターな哲学的要素を含んだ内容の作品です。この物語では、いくつもの名言やグッとくるセリフが散りばめられています。まさに名言の宝箱です。あなたにも自分の胸に刺さるような言葉が見つかるかもしれません。猫好き・読書好きな人にはもちろんですが猫嫌い・読書嫌いの人も読んでもらいたいです。なにも難しい言葉はありません。その気になればすぐに読了出来ると思うので、気軽に手に取ってみてください。

二年一組 藤原 亜衣

岩貞るみこ著・松本ぷりっつ絵『わたし、がんばったよ。』

ご飯を食べる、お風呂に入る、友達と走り回る。そんな私たちにとってあたりまえの生活を病気によって失われた。しかし、美咲ちゃんをあきらめなかつた。痛くてつらい治療も、どんなにしんどくても、そして、治療を受け続け、退院することができた。しかし、みんなのように掃除をしたり、体育をしたりできなくていじめられたりした。でも、美咲ちゃんはくじけず、一冊の絵本「わたし、がんばったよ」を完成させた。この絵本では、病気についてや、やりたくてもできないことがあることを伝えた。そしてもっともつと頑張ることを誓った。こんな強く優しい女の子から命の大切さやあきらめないことの大切さが感じられる感動の物語です。

二年三組 貝阪 真鈴

清水茜『はたらく細胞』

「はたらく細胞」について紹介します。「はたらく細胞」とは、その名の通り人間の体内で働いている細胞たちの漫画で、赤血球の少女目線のお話が多いです。この漫画では赤血球や白血球、キラーT細胞や樹状細胞などさまざまな細胞たちが活躍し、またそれぞれのような働きをしているのかがわかりやすく楽しく知ることが出来ます。そして、私の思ういちばんの見所は、細胞たちとウイルスなどの外敵との激しい戦闘シーンです。特にがん細胞との戦いが壮絶で、生まれながら敵と見なされ問答無用で殺されてきたがん細胞が激しい怒りや悲しみをぶつけるのが切なくなりました。「はたらく細胞」はアニメ化も決定していてとても面白いのでぜひ読んでほしいです。

二年六組 奥丁 葵

『三国志』『三国志演義』 皆さん、歴史ものの本はお好きですか？好きな人もそうでない人も、中国の三国時代についての本を読んでみるのはいかがでしょうか。日本の戦国時代にもひけをとらないドラマが感じられますよ。今回は、その三国時代に關する本をふたつ紹介します。

まずは代表格「三国志」。いわゆる正史とされるもので、信用性の高い内容で英雄の活躍が楽しめます。

次は「三国志演義」。主軸となる三国の中でも人気の高い蜀を中心とした、独自性の高いシリーズです。

今回紹介した2つ以外にも、三国時代についても本はまだまだあります。図書室を探してみてもお気に入りの「三国」の本を見つけてください

ね。

二年四組 赤松 莉華

ミリヤム・プレスラー『マルカの長い旅』

この本は第二次大戦下のポーランドでの話です。夫と離れ、女手で二人の娘を育てていたユダヤ人の女医ハンナは「ユダヤ人狩り」の噂を聞きます。治療したドイツ人将校に「逃げろ」と耳打ちされたハンナは娘たちと供にハンガリーとの国境を目指して歩き出します。しかしまもなく、七歳の下の娘マルカは熱を出して倒れてしまいます。「治るまで面倒をみて、あとで合流させてあげろ」という地元の人の言葉を信じたハンナは先に旅立つが、マルカを預かった人物は身の危険を感じ、マルカを置き去りにしてしまいます。

見知らぬ場所に一人残され、飢えや寒さに耐え、生き抜いていくマルカと、娘を取り戻そうと苦闘するハンナ。実在のユダヤ人女性の体験に基づき、再び

めぐり会うまでの日々を描く、心に響く感動の一冊です。

一年三組 田中 遥菜

湊かなえ『白ゆき姫殺人事件』

わたしは「白ゆき姫殺人事件」という本をおすすめします。この本の作者は湊かなえさんで二〇一四年に映画が公開され、とても注目を浴びた作品です。

この話は化粧品会社に勤める美人OLが山の中心で遺体となって発見され、一人の女性が犯人だと疑われはじめ話は進んでいくのですが、一番この話で特徴的な所が、SNSなどの今のインターネット社会のあり方や恐ろしさがありアルに描かれている所です。インターネット社会を生きる私達にはよくわかる作品だと思います。

映画を見た人も原作を読んで、より一層この作品について理解を深めてほしいと思います。

一年三組 北川 郁夫

森岡外『高瀬舟』

主人公の役人も、喜助

も、死んだ弟も、誰もが現代でもごく普通にいるような人間。自分が喜助のようない立場であったとき、きつと迷わず弟を楽にしようとしたら、弟であつたなら、申し訳ないと思いつつも喜助にすぎるしかなかったであろう。でもそれは善ではなく、かといって悪とも言い切れない。人を裁くことの難しさ、そして安楽死についての作品であるが、しみじみと淡々と描かれているのが印象的な作品です。みなさんも是非図書室に来てください。

二年四組 友藤 美紅

『あたり前の日々』

あたり前の日々には笑い、感動がいっぱい！母、父、みかん、ユズヒコ、いわゆるふつうの4人家族「タチバナ家」。この家族の日常を中心に、学校生

活、母の交友関係などなど、人々の暮らしがいきいきと描かれています。「そうそう！」と共感できるエピソードもあれば、「えっ！」と驚く発見もある。

時に爆笑、時にジーンときせられて、登場人物みんながいとおしくなる：そんな日常漫画です。一九九四年から約十八年間、読売新聞日曜版に連載され、コミックスは累計一千万部を突破。各国で翻訳され、アニメとともに、海外でも大人気です。

二年五組 吉田 歩未

有川浩『植物図鑑』

主人公の河野さやかが仕事帰りに行き倒れている樹という男の人と出会い、2人で共同生活をすることに：！共同生活をしている間に芽生えるある感情：！！この2人の関係はどのようなのか？樹と、さやか、2人の距離が近づく過程にハラハラドキドキです！！映画にもなった、と

でもオススメな作品です！！ぜひ！！みなさん読んでみて下さい！！

二年五組 高瀬 りの

優李阿『本当にある猫たちの恩返し』

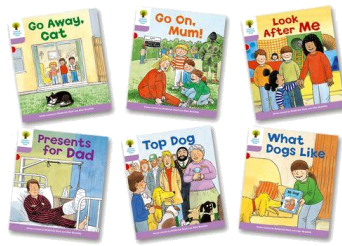
どんな生き物にも、すべて生きていくことには意味があり、使命と目的を持って生まれてきています。この本には、作者の優李阿さん自身が実際に体験された話や、他の飼い主さんたちからお聞きになった宝物のようなエピソードがたくさん含まれています。この本を読むことで、人間も動物も、愛と命の絆が最も大事であるということが気付くことができ、あたたかい気持ちになることができます。動物が好きな方にとってもオススメしたい一冊です。さあ、動物たちからの愛と絆のメッセージと一緒に受けとりにいきましよう！



新たに購入した本を会議室に置きました。

『Oxford Reading Tree』

子ども向けの英語の絵本で楽しく英語を学べます。1話完結でレベル別になっているので、基礎から無理なく読み進められます。今年度は Stage 1〜3 を入荷しました。英語が苦手な人にぜひ！



『眞座勇一「応仁の乱」』

硬派な歴史新書でありながら、異例の四十万部を突破したベストセラーです。誰もが知っていて、誰もその詳細を知らない応仁の乱を新進気鋭の歴史学者が詳述します。なぜ英雄なき応

仁の乱はズルズル十一年も続いたのでしょうか。同時代を生きた奈良の僧侶の視点から、丹念に読み解く骨太の一冊です。



『マキアヴェリ「君主論」』

イタリヤ統一を願うマキアヴェリが主君に捧げた書です。「大企業はけちとみられる人物によってしかなしとげられない」「運命は女神だから、打ちのめし、突きとばす必要がある」彼の真意はどこにあるのでしょうか。官僚としての実体験に基づく冷徹なまでのリアリズムに貫かれ、ルネサンス期から波紋を呼び続けるリーダー論の名著！



教員からメッセージ

「学びの瞬間」を待つ

国語科

辺見翔太

毎日毎日、授業で学び、自宅での予習復習で学び、また生活の中での様々な経験から学び・・・我々は日々何かを学んでいます。学校に通っているのですから当たり前ではあるのですが、「勉強ってしんどい。」

「こんなんやって何になるん。」など、日ごろからこのような声をよく聞きます。「何になるか」についてはまた今度授業などで話すとして、そもそも「学び」とはなんでしょう。

皆さんは自分があれやこれやと考えて、その時は全くわからなかったのに、別のことをしていてふと「あれは、そういうことだったんだ！」と思ったことはありませんか。あるいは、何かを見たり聞いたりした時に、以前考えていたことが急激に一本の線に繋がるよ

うな、痛々な経験はないでしょうか。

十数年にわたる報道番組担当を降板し、今バラエティなどで活躍されている古館伊知郎さんが、先日インタビューでこのような話をされていました。

「疑問や謎を脳内で熟成させて、5年後とかに古本屋で答えに出会ったりする。それが学びの瞬間だと思うんです。」

勉強をされていて、すぐに結果が出ずに悩んでいる人はいませんか。人との付き合いで上手くいかないことがあつて、簡単に解決しようと思つていませんか。定石はあるかもしれない、しかし決まった形のないものに対して諦めがあつたりしませんか。「学びの瞬間」が訪れるのは、もちろん古本屋だけではありませんし、5年後に必ず、というわけでもありません。ただ、その「瞬間」が来るまで、いかに自分の頭の中で熟成できるか。いかに準備した状

態で待ってられるか。逆に言えば今当たり前にできていることは、以前に熟成させた考えの結果とも言えるかもかもしれません。そう考えると、より一層、日ごろから物事に対して一生懸命考え、あらゆる事に対する引っかけりを作っておくことが大切です。

私はこの古館さんのインタビュー本の「ある時間、待つてみてください」という言葉です。これの意味するところは、数式の計算に使う括弧を例に出し、「生きてゆくうえで、本当に難しい問題にぶつかった時、一応それを括弧に入れて、「ある時間」おいておく」というものです。ある時間おいておくうちに、問題を解くヒントが見つかるかもしれない。「ある時間」の間に成長し、「答え」を導き出せる自分になっているかもしれない。あ

らゆる事に対するひっかかり、問題に対するヒントや答え。それらに辿り着く方法の一つが読書であると思います。

「答え」に出会う手段として古本屋の本があげられるとするならば、「疑問や謎」を産み出す役割もまた、本は担うと思うのです。本によって生まれた疑問を本で解決する瞬間。人とのやりとりでの問題やトラブルを本での経験が解明してくれる瞬間。本によって考えさせられた問題の解決策が、周囲の人との関わりで見えてくる瞬間。順序やタイミングはその都度変化するでしょうが、読書が我々に「学びの瞬間」を与える手助けをしてくれるのは確かです。

おすすめの本の紹介

「コップの中の水を捨ててほしい」と言われたら、あなたはどうしますか？

1年間、生徒の皆さんと話をしている、勉強のことについて、「どうやったら点数をとれるの?」、部活動のことについて、「得点を取りたい。」「いい音色を奏でたい。」「上手になりたい。」など、多くの疑問や欲求を聞きました。

漠然とした、しかし確実に成し遂げたいこと、あるいは成し遂げなければならぬこと。そのことに対して漠然としたままにしていまませんか。あるいは、考えること自体を辞めていませんか。

15年間生きて来たわけですから、少しずつ自分の性格を知り、聞くだけではなく「ではどうするのか」と、考えなければなりません。

コップの中の水の話に戻ります。コップを傾ける、

水を温めて蒸発させる、コップの底に穴を開ける、などなど。同じ「水を捨てる」でもいろいろな方法があるのです。

勉強でも部活でも同じです。

集中力が一時間持たなかったら、三十分を2回に区切ってみる。

今まで眺めていただけの単語を、手を動かして書いてみる。

腹筋を鍛えるために、筋トレをするのではなく、日頃歩いているときにお腹に力を入れる。

勉強する。鍛える。やること、目指すべきことは変わりません。ただし方法を変えます。自分の性格や体質、環境にあった方法を工夫し、実行するのです。

授業で教わったことを軸にして、自分で考えてみる。さらに言えば、今やっている勉強や練習は「何を鍛えるためにやっているのか」を考える、ということ。そして、やり方を少し変え

れば昨日よりは続けられるかもしれない。「やりがい」や「楽しみ」を見いだせるかもしれない。いわゆるモチベーションにも繋がります。

これは、自分以外の人間を見る時も同じことが言えます。日頃からこの工夫する力を養っておくと、人のほんの一面を見ただけで判断するのではなく、様々な角度から(物理的にも、心理的にも)見る力がつきます。

そのためにもまず、自分で考えて工夫すること。そして工夫することに面白みを感じる。

自分を本当の意味で見詰める直し、自分なりの工夫をして、自分なりの方法を確立してください。

参考『ウラからのぞけばオモテが見える』佐藤ナオキ 川上典李子 共著 (デザインの本ですが全生徒におすすめ。)



読書は、その引掛かりを作るもの、つまり学びの瞬間を与えるものであり、脳内で熟成させる手助けをしてくれるものだと思います。

「無限へのパスポート」

地歴公民科

石田 裕生

「すべての人間は生まれながらに知ることを欲する」

古代ギリシアの哲学者アリストテレスが述べるように、知の探求は人間のみに許された高邁な精神的営為です。しかし昨今、わかりやすい言説のみがもてはやされ、みずから知を探究する機会が減っているように思われます。欧州におけるポピュリズムの台頭はその最たる例でしょう。確かにわかりやすさも大切ですが、それだけでは真の知に到達することはできません。やはり古典的名著を読み、深い教養を身につける必要があります。時代・地域を越えて読み継がれる古典的名著には普遍的価値があり、そこから多大な示唆を得ることができるとは思います。

それでは、どのような古典的名著を読めば良いのでしょうか。皆さんは、日本

史・世界史・古文・漢文などの授業でたくさんのお名

史・世界史・古文・漢文などの授業でたくさんのお名を学んだと思います。その中から、自分の興味に合う本を選ぶと良いでしょう。私の場合は学問に興味があり、教壇に立つ者として学問の意義を日々模索している

ので、マックス・ウェーバーの『職業としての学問』を読んでみました。ウェーバーは世界史の教科書でもおなじみのドイツの社会学者ですが、『職業としての学問』は第一次世界大戦の敗戦で動揺するドイツ青年たちにウェーバーが語った講演をまとめた書です。この講演のテーマは、①職業としての学問に対して教師・研究者がとるべき心構え、②学問の職分

の二点に帰着します。この講演は聴衆に脅かすような印象を与えたそうです。実際、本書を読むと、ウェーバーがまるで現前するかのごとき印象を受けます。ウェーバーについての解説は到底叶わないので、学問の心構

えについて述べたウェーバーの言説を瞥見しましょう。「自己の全心を打ち込んで、夢中になることのできな

い人は、学問には縁遠い人々である。(中略)なぜなら、いやしくも人間としての自覚のあるものにとつて、情熱なしにならざるべきは、無価値だからである。」

「学問の領域で個性をもつのは、その個性ではなくて、その仕事に仕える人のみである。」

学問のみならずスポーツ・芸術に携わる者にも示唆を与える至言です。ウェーバーは「知的廉直」という言葉をよく使いますが、果たして私たちは日々の仕事(高校生であれば勉学・部活動・行事)に廉直に向き合っているでしょうか。自己を滅して専心すべき仕事を、自分の名を売るための手段のように考えていませんか。ウェーバーからすると、そのような浅薄な思慮では個性を永遠に獲得できないのです。自我を没却

して仕事に献身するほどの情熱こそが学問に必要だとい

うメッセージは今こそ顧みられるべきでしょう。この講演のもう一つの重要なテーマは学問の職分です。私はそれが知りたくて

本書を読んだのです。ウェーバーによると、学問の進歩は無限に続き、学問に終わりはありません。このよ

うな運命にある学問に意義はあるのでしょうか。ロシアの文豪トルストイは「いかに生きるべきかについてなにごとをも答えないから、学問は無意味な存在である」と放言し、ウェーバー自身も生きる意味について学問が答えないことには首肯しています。斯くて学問の意義の答えを本書に求めた私は絶望に打ちひしがれますが、ウェーバーの真意は別のところにあつたのです。

すなわち、学問は一切の政治的立場や価値判断から自由でなくてはならず、明確さと責任感を与えることが学問の

実践生活への寄与であるというのが、ウェーバーの答えだったのです。浅学非才の身にはウェーバーの表現は難解であり、彼の意を十分に汲み取れたとは思えません。しかし、あれこれ考えながら、今は亡き偉人と対話できたことは至福でした。学問の意義についても結局あまりわかりませんが、答えを性急に求めるのではなく、わからないことを考え抜くことが学問の醍醐味であり、学問の無限性そのものを積極的に評価すべきだと思います。

皆さんは、まずは教科の知識を幅広く身につけねばなりません。知的な議論に加わるには古典的教養が必須です。幸いなことに、知の世界が無限に広がる古典的名著を図書室で気軽に読むことができます。そう、皆さんは「無限へのパスポート」をすでに手に入れているのです。それを使うか否かはあなた次第です。

7

「美しいものを知る」

理科

岸上 昂祐

ペンをとって円を描いてみてください。円の数学的な定義は、ある定点から距離の等しい点の集合でできる曲線です。一筆書きでと言われれば困難ですが、消しゴムを使い何度も描きなおせば、理想の円に近づけていくことができるかと思えます。これはみなさんの頭の中に美しい円というイメージがしっかりできているからです。

では次に難易度を少し上げて、楕円を描いてみましょう。楕円の数学的な定義は、二つの定点からの距離の和が一定となるような点の集合でできる曲線ですが、簡単に言えば円を押しつぶしたような形になります。これを一筆書きすることは困難を極めるでしょう。では、消しゴムを使い何度も描き直せば、ただの円と同じように、理想の楕円に近

づけていくことはできるでしょうか。恐らく、十分に時間をかけ、何度手直ししたとしても、美しい楕円が描ける人はそう多くはないはずです。一般に、美しい円のイメージを持っている人はいても、美しい楕円のイメージを持っている人はそう多くないからです。(もし、ばつちり楕円がかけているなら、あなたはきっと美術か数学の関係者でしょう！)

私は十五年以上絵を描いていますが、未だに影の色に悩みます。絵は数学とは違い、絶対的な解答が存在しないからです。実際にモチーフを組み、写真を撮ってみれば、その写真が答えだと思える方もいるかもしれませんが、それは違います。絵はリアルである必要はありません。絵は嘘を描くことで、リアルを超えるのです。例えばジブリ映画では必ず食事シーンが入っています。そのシーンに登場する料理は、今すぐにも食

べたくなるほどおいしそうに見えますが、それらは決してリアルな目玉焼きやベークンではありません。

絶対的な解答が存在しないのであれば、何が影の色を決めるのでしょうか。私が思うに、それは、画家自身が何を美しいと感じるかによって決めるのです。絵にはある程度の理屈はありますが、最終的には画家自身、その色が絵に調和をもたらし、美しいと感じたから、その色を置くのです。画家は自らの美学を、絵を描くことで表現しているのです。逆に言えば、自らの美学がなく、何が美しいかわからない人は、美しい絵を描くことはできないでしょう。

では、美学を持つためにはどうすればいいのでしょうか。絵を闇雲に描き続ければいいのでしょうか。それも確かに大切ですが、しかし、私が思う最も大切なことは、美しいものを知ることです。美しい楕

円を知らない人が、どれだけ時間をかけて楕円を描いても、真の楕円に近づかないように、美しいものを知らない人が、どれだけ時間をかけても美しい絵にはならないのです。絵の上達とは、自らが美しいと感じる感性を磨き上げることに他なりません。

さて、ここまで私は、千二百二十二字の文字を連ねました。私は物書きが専門ではないので、この文章の美しさは程度が低いものかもしれませんが、私はできる限りの注意を払い、この文章が美しくなるように書き連ねたつもりです。この文章を書くに当たって、何かを参考にしているわけではありませんが、参考にしていないつもりでも、私がかつて読んで本の中から、美しいと感じた言葉遣いや言い回しを、使い回していることでしょうか。

もし私に本を読んだ経験がなければ、私にとってこの執筆は地獄の責め苦だっ

たに違いありません。美しい文章を知らなければ、自分が書いたものが良いのかどうなのかわからないのですから。

文章を書かずに生涯を終える人はほとんどいないでしょう。高校の間だけでも、大学を推薦入試で考えている人は、自己推薦書を書かなければいけませんし、入試当日にも小論文がある場合があるでしょう。就職を考えるにしても自己アピール文が必要になることがほとんどです。

あなたは今、筆をとって、自分の良さを、夢に対する思いの強さを、自分の知識を、誰かに伝えるために、美しい文章が書けますか。もしその自信がないのであれば、本をとって、美しいものに触れてみてはいかがでしょうか。